

[ライブ・サーティ]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

212

2015年
9月-10月



CLOSE UP

脳性麻痺の方への新たな治療プログラムの構築に取り組む

小児・障がい者リハビリテーション

OMICHI ACADEMY

第56回日本神経学会学術大会

第50回日本理学療法学術大会

病棟看護師として出来る退院支援・調整

第15回大阪介護老人保健施設協会懇話会(事例発表会)

第32回全国デイ・ケア研究大会

OMICHI SCRAMBLE

金城科員が皮膚・排泄ケア認定看護師を取得
認知症サポートに関する研修を実施

INFORMATION

森之宮病院神経リハビリテーション研究部の研究が『週刊朝日』に掲載
当法人の理学療法士が公益法人日本理学療法士協会の認定理学療法士を取得



最優秀賞
「Live30」
雑誌「Live30」に掲載において
最も優秀であったと認定され、
日本1位の栄誉を授けらる。
日本理学療法士協会

小児・障がい者リハビリテーション

1982年のボバース記念病院開院以来、大道会は全国に先駆けて、脳性麻痺をはじめとする小児期発症の神経疾患に対するリハビリテーションの提供に取り組んできました。今回は昨年度より進めている脳性麻痺の方への新たな治療プログラム構築に向けたプロジェクトについてご紹介します。



チーム医療の実現と新たな課題

1998年、ボバース記念病院では小児整形外科に小児神経科が加わり、リハビリ・看護スタッフの連携によって充実したチーム医療が提供できるようになりました。2006年の森之宮病院開設時には、患者さんの増加に対応して十分な治療を提供するため、18歳未満の方は森之宮病院、18歳以降はボバース記念病院と年齢に応じた役割分担を導入しました。

しかし、その後の10年間で森之宮病院の患者さんはさらに増加し、入院や外来でのリハビリを十分提供できない状況が続きました。また、成人期に達した患者さんも、スムーズにボバース記念病院に移行できていませんでした。このような患者さんを受け入れ、必要なりハビリを提供できる地域資源は乏しく、結果として十分な治療が受けられる患者さんの方が少ないという状況に陥っていました。

小児部門の医師の熱意が 法人を動かす

森之宮病院小児神経科の荒井洋部長は、長いリハビリの待機期間に機能が落ちたり身体の変形が進んだりしている患者さんを診るたびに、「この状況を改善しなければならぬ」という思いを強くしました。そして2013年秋、3カ月間休職して脳性麻痺患者さんへの最適な治療プログラムとは何か、それをどうしたら提供できるかを徹底的に検討しました。一方、ボ

バース記念病院で成人の脳性麻痺患者さんの診療を行っていた森之宮病院 柴田徹副院長は、「成人期以降は極端にリハビリを受ける機会が減る現状を何とか変えたい」と、より積極的な治療の提供をボバース記念病院の今林美喜夫院長に働きかけました。

新たな治療プログラムのアイデアを聞いた宮井一郎副理事長は、「実現するには多職種が協力して、大道会の1つの事業として進める必要がある」と考え、法人全体のプロジェクトとしての方向性を打ち出しました。

2014年2月、荒井・柴田・宮井の3医師が中心となり、看護師、リハビリスタッフ、事務職員を含めた総勢20名による経営戦略策定プロジェクトチームが発足し、脳性麻痺の方に小児期〜成人期に至るまで十分なリハビリを提供するための事業が始まりました。



診療にあたる小児神経科・小児整形外科の医師

経営戦略策定 プロジェクトの努力

チームは4つに分かれて8カ月間にわたり活動し、経営戦略策定プロジェクトが持つ可能性を多面的に検討しました。アンケートやインタビューを通じて患者さん・ご家族のニーズを把握し、潜在的な患者数の分析やアクセスの見直し等、安定した事業の継続に必要な要素を洗い出しました。

4チームの名前と業務

Staff

人材育成やスタッフの最適配置のためのプランを作成

Measure

実現可能な治療プログラムおよび治療効果の評価方法を策定

Analysis

経営分析・マーケティング

Life

家族の方々への一生涯にわたるサポートモデルを構築



プロジェクトの成果を経営層に報告

アンケート結果

- 計画的で継続的なリハビリのニーズが高い
- リハビリや生活サポートに関する情報や患者さん・ご家族同士で集まれる場、気軽に相談できる窓口等のニーズが高い

Q. リハビリに関する希望について(一部抜粋)

森之宮病院 小児リハビリ患者さん(0歳~高校生)へのアンケート結果
314名(配布数334、回収率94%)
平成26年6月6日~12日実施

- とてもそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 あまり思わない
 全く思わない

開始時期や期間を計画的にはっきり示してほしい



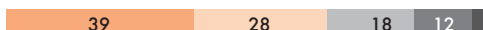
PTとOTあるいはSTを並行して受けたい



一年通じて切れ目なくリハビリを受けたい



土曜日や日曜日にもしてほしい



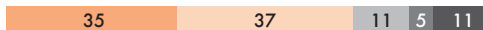
(%)

Q. 生活面における希望について(一部抜粋)

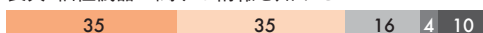
ボバース記念病院 障がい者リハビリ患者さん(18歳~78歳)へのアンケート結果
83名(配布数84、回収率98%)
平成26年7月8日~14日実施

- とてもそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 あまり思わない
 全く思わない

サービスや福祉に関する情報を教えてほしい



装具・福祉機器に関する情報を知りたい



訪問看護や訪問リハビリを受けたい



ホームヘルパーやショートステイを利用したい



同じ病気がある人たちの人生や進路を知りたい



痛みやしびれ等(二次障害)について相談したい



(%)

新たな治療プログラムを实践

2014年12月からは、この治療プログラムを実際の医療現場に導入しました。特徴は、「入院による集中リハビリテーション」と定期的な外来治療を組み合わせ、「治療効果の定期的な評価を行う『フィードバック』」することです。スペー

これからの小児・障がい者リハビリテーション

アンケートの中で要望が多かった「患者さん本人やご家族の日常生活のサポート」に関して少しずつ取り組んでいき

たいと考えています。

また、新たな治療プログラムと関連して、森之宮病院小児神経科の小倉加恵子医師が日本学術振興会から科学研究費を得て、「脳性麻痺児の読み書き・計算における強みと弱み及びその神経基盤の解明」と題した研究を進めます。読み書きや計算の能力は学習に直結し、就学や社会的自立・就労にも欠かせない要素です。このような研究を通して、患者さんへの科学的な面での支援もめざしています。

最後に、宮井副理事長は「世界に向けて脳性麻痺の方への最先端のリハビリテーションモデルとなるような仕組みを大会から提供していきたい」と抱負を述べています。

発表報告

第56回 日本神経学会学術大会

日程：5月20日～23日
場所：新潟県 朱鷺メッセ



森之宮病院
神経リハビリテーション研究部
河野 悌司

今後もしハビリによる脳活動の変化についての知見を増やしていきたい

今回、私は、「脳卒中患者における感覚運動野の脳波位相同期と運動機能との関連」というテーマで発表する機会を頂きました。

脳卒中では病変部のみならず脳全体の神経ネットワーク全体の機能も低下し、機能障害やADL低下の原因となります。我々は昨年、脳波を用いてこの神経ネットワークを評価し、左右半球間の脳波位相同期(Inter Hemispheric Phase Synchrony: IHPs)が虚血性脳卒中患者のADLスケール(Functional Independence Measure: FIM)と有意な正の相関を示すことを報告しました。このことは、左右の脳が良く同期している患者さんはADLも良好であることを意味しています。一方で、上下肢運動機能スケール(Fugl-Meyer Assessment: FMA)とIHPsは全く相関を認めませんでした。

その後の検討で、運動野付近の同期(Phase Synchrony Index: PSD)は上下肢

の運動麻痺と良好な相関を示すことが明らかになりました。また、入院時と退院時に2回測定を行った群では、指数化したFMAのスコア改善とPSDIの間に有意な相関を認めため、本年はこの知見についての発表を行いました。

脳波位相と脳卒中患者の臨床指標との関係については、これまで限られた報告しかなく、関心をもった様々な方からご質問を頂き、非常に有意義な発表でした。今後データを蓄積し、リハビリテーションによる脳活動の変化についての知見を増やしていきたいと考えております。



森之宮病院
神経リハビリテーション研究部
藤本 宏明

脳活動の「見える化」によるリハビリシステムを開発

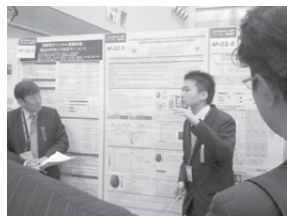
第56回神経学会総会には4日間で約7000人の、神経内科医師と神経内科に携わる多職種の方々が集いました。今年のテーマは「社会の中の神経学」で、私の演題「Facilitating SMA using a NIRS-mediated neurofeedback improves postural stability」が最優秀ポスター賞候補として選出されました。

以前、私達は、安全で簡便に脳活動を測定できる装置(近赤外分光法：NIRS)を用いた「ニューロフィードバック」システムを開発しました。これは、本来感知することが難しい脳活動を測定し、結果を即座に本人に分かりやすく提示することで(いわゆる脳活動の「見える化」)、その脳活動を自らの意

思でコントロールできるように自主訓練できるシステムです。発表内容は、この手法を用いて補足運動野という大脳の特定位の活動を上昇させ、姿勢バランス改善効果を検証したものです。

残念ながら受賞は成りませんでした。発表翌日にプレスセミナーで研究内容を発表する貴重な経験もできました。神経リハビリテーションという、まだ十分に周知されていない分野ながら、現在取り組んでいる研究の社会的注目度が高いことを改めて実感できました。

今後、脳卒中や脊髄小脳変性症等の患者さんを対象に、同様の結果が得られるか検証を進めるか検討を進め、重症患者さんにとっても安全で効果的なりハビリ手法として確立できれば有意義だと考えています。



藤本医師が報告する研究成果

発表報告

第50回 日本理学療法学会学術大会



ボバース記念病院
リハビリテーション部
理学療法科
中村 和由

日本理学療法学会学術大会で初めてのポスター発表を経験

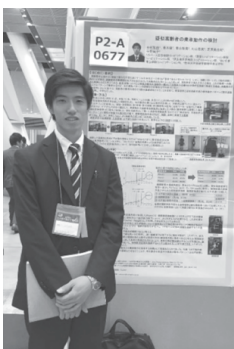
日程：6月5日～7日
場所：東京国際フォーラム

本学会は今年50回目の節目であり、「理学療法50年のあゆみと展望」～新たな

なる可能性への挑戦」がメインテーマとして掲げられていました。大会記念シンポジウム「歩行のメカニズムとその障害」では、旭川医科大学の高草木薫先生と国際医療福祉大学の山本澄子先生の講演があり、リハビリテーションにおいて、歩行の神経生理学的な側面とバイオメカニカルな観点から評価、治療を行う事が重要であることを改めて感じました。

私は今回初めて理学療法学会に参加し、「疑似高齢者の乗車動作の検討」という演題でポスター発表を行いました。高齢者体験装具を使用した疑似高齢者と、健常者の乗車動作を2次元動作解析装置を用いることで比較し、疑似高齢者では、健常者とはどのような動作の違いと特徴があるかを検討することを目的としました。研究結果として、疑似高齢者では、下肢の関節可動域制限や筋力、視覚を代償する特徴的な3つの動作パターンを観察することができました。今回得られた結果から、高齢者に対する乗車動作を指導し、評価する際の1つの指標を提示することができたと感じています。

また、今回の発表ではいくつかの貴重な助言を頂いたため、今後の臨床や研究等の活動に生かしていきたいと思



初めての発表で緊張する中村科員

参加報告

病棟看護師として出来る
退院支援・調整



森之宮病院
看護部4階東病棟
友定 幸恵

退院支援の重要性を
再認識できた

日程：5月22日
場所：ナースिंगアート大阪

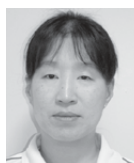
今回、「病棟看護師として出来る退院支援調整」について研修を受けました。研修を通して、退院支援調整には、「合わせる」「整える」「つなぐ」「備える」のプロセスがあることを学びました。

第一段階の「合わせる」は、家族、患者を含む全員が気持ちを合わせる事を表しています。「患者と家族の意向、意思決定の支援」「入院前の生活・介護状況の把握」「状況認識、問題の分析を行い、初期の目標設定」が必要です。その為、医療チームとしては連携の強化と方向性の共有が重要になります。第二段階の「整える」は、退院後の生活に向けて協働します。家族、患者、医療者が在宅療養のイメージを共有し、家族の力量やペースに合わせて、気持ちの揺れに寄り添い、受容・自立・自律に向けた支援も行う必要があります。第三段階の「つなぐ」では、自宅に帰っても継続できるように調整を行う必要があります。利用する社会資源・サービス内容・地域への関係機関への最終的な情報共有を行います。最後の第四段階では、他職種と「つなぐ」事で必要な物品や解消すべき問題

が抽出され、「備える」に繋がります。これらのプロセスを振り返ると、今、病棟で取り組んでいる退院支援がどれだけ重要か再確認できました。カンファレンスや訪問指導等には病院を超えた多職種が参加します。まさに、「つなぐ」「備える」です。

会場からは「在宅復帰に向けて、どこまで準備すればいいか見えなくなる時がある」との声がありました。在宅看護師の方は、「帰りたい」と思う事が大切。本人が帰りたいと言ったら一度在宅へ帰れるプランを考えてみて下さい。皆さんが思っているほど、できない事はありません」と返され、連携における最も大切なことは「信頼」であると感じました。今後、病棟の退院支援に役立てていきたいと思います。

発表報告



グリーンライフ
療養サービス部3科
梶 由紀子

第15回 大阪介護老人保健
施設協会懇話会(事例発表会)

介護職員主導による自主練習で
ADLの維持・向上をめざす

日程：7月10日
場所：大阪国際会議場

今回、「自主練習でADLの維持・向上を目指す。短期集中リハビリテーションを終えて」というテーマで事例発表を行いました。内容は、3カ月間の短期集中リハビリ終了後、ADLの低下が見られる利用者について、どうすればADL

Lの維持ができるかを考えました。介護スタッフとリハビリスタッフの連携が取れていなかったのではないかと思いい、リハビリスタッフの協力を得て、個々に合った自主練習メニューを作成し、介護職員主導で自主練習を実施するという内容でした。

特に反響があったのは、介護スタッフ主導での自主練習であり、どの様にすれば時間が取れるのかという点で、関心の高さがうかがえました。どの施設でもADLの低下は課題であり、できるなら最低でも維持していきたいと考えているようでした。質疑応答中、もつとできることがあるのではないかと感じました。今回の研究において、自主練習をする過程で、利用者との関わり方や声掛けの仕方等、自分自身の勉強になる事が沢山ありました。

他施設の事例発表では、転倒や転落・スピーチロック等に取り組んでいる事例には考えさせられました。「忙しいから、ちよつと待つて」ではなく、業務改善をしながら、利用者が安全・快適に過ごせる環境を作っていきたいです。

参加報告

第32回
全国デイ・ケア研究大会



森之宮病院
リハビリテーション部
作業療法科
泉浦 文哉

退院後の生活を見据えた
支援が大切と感じた

日程：7月24日～25日
場所：リーガロイヤルホテル広島

広島県で行われた、第32回全国デイ・ケア研究大会に参加させて頂きました。今回の学会では、平成27年度の介護報酬改定を受け、より質の高いサービス提供をめざす事、そして「心身機能」だけでなく「活動」と「参加」への働きかけの重要性、それが社会にもたらす影響という事が強調されていました。

「2025年問題」に向け、高齢者独居世帯等の増加に対処し、介護、医療、予防、そして住まいと生活支援を一体的に提供・支援する「地域包括ケアシステム」の構築をめざしている現状です。この中で、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく、生きがいや役割を持ち生活できる地域をめざすには、ICFの考えを踏まえた「心身機能」「活動」「参加」の要素にバランスよく働きかけるリハビリテーション提供体制の構築が課題となります。

しかし、急性期、回復期のリハビリでは限られた期間の中で、機能回復訓練を行う事は必須であり、それが役割であるかと思えます。しかし、入院期間の機能回復訓練にだけ目を向けていては、退院後も受診者は機能回復に固執し、社会への参加の妨げになる可能性があるということに注意する必要があります。

その為、退院後の生活を見据え、社会への参加に繋げるための回復期病棟としての役割は、入院中の状態を踏まえて、今後の見通しをチーム間で話し合い、受診者への説明が円滑に行え、受診者自身が生活のイメージを持ち生活期リハビリに移行できる支援を行う事であると感じました。

森之宮病院

金城科員が皮膚・排泄ケア認定看護師を取得しました

皮膚・排泄ケア分野で悩んでいる方達に、根拠のある看護を提供したい！この思いで平成26年5月から7カ月間にわたる皮膚・排泄ケア分野認定看護師教育課程に進みました。興味を持った契機は、褥瘡（じよくそう）委員会に所属し、上司である皮膚・排泄ケア認定看護師の活動を目の当たりにしたことです。難治性の褥瘡や創傷の、治癒に向けてのメカニズムや看護ケアについての説明は、なるほどと思えるものばかりでした。また、当院に循環器内科が開設されてからは足に創傷を持った患者さんが多く入院されるようになり、本当にこのケアで良いのかと悩むことが多くなりました。そこで、自分も皮膚・排泄ケア分野で根拠を持って看護を行いたいと思い、認定看護師をめざしました。

研修では充実した日々を過ごしましたが、プレッシャーは大きく、クラスメイトはもちろん、上司・先輩・同僚・後輩の応援があったからこそ、卒業することができたと強く感じています。

皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷・オストミー・失禁に関する問題を抱えた方に対して、専門的知識・技術を持ち、問題解決に向けてアセスメントを行い、看護を提供します。そして、本当にこの看護で良いかを問い続ける必要があります。ただし、看護は一人で行えるものではありません。多職種と協働し、根拠を持った、より質の高い医療と看護を提供していけるよう、チームの一員としての役割を果たしていきたいと思えます。

患者さんとそのご家族のQOLが向上することで、たくさん笑顔を見られるように、日々精進していきたいと思えます。

（森之宮病院6階西病棟看護部 金城美恵）



ストーマ器具についての相談を受けている金城科員(右)

グリーンライフ

今年も夏祭りを開催しました

7月19日、グリーンライフ1階デイフロアにて毎年恒例の夏祭りを開催いたしました。今年も東中浜連合町会女性部の皆さんに盆踊りを披露して頂き、例年以上にたくさんのご利用者が参加されました。踊りながら「昔、踊ってたから楽しいわ」等とお話しされ、職員に指導される方もおられて

大いに盛り上がりました。また、屋台で食事やカキ氷を食べられ、皆さん、暑い夏の一時を満喫されていました。

（グリーンライフ療養サービス部3科 岡田浩志）



ご利用者も皆さん楽しめました



大盛り上がりの盆踊り風景

ボバース
記念病院

恒例の七夕会イベントを開催しました

7月8日、ボバース記念病院で七夕会を開催し、フラダンスを披露して頂きました。私達介護福祉士も衣装に着替え、患者さんを迎えました。

「なんや、あんたらが踊るんか…」と患者さんはがっかりした様子(笑)

イベントが始まり、ハワイアンメロディーとともにゲストのカリノ・パール・フラ・スタジオの皆さんが入場されると、一気に南国ムードに包まれました。ハワイの風景を思わ

せてくれる曲と美しい衣装、優雅なダンスに拍手が湧き上がりました。

鑑賞されていた患者さん達も、教えてもらいながら一緒に踊る場面もあり、楽しい一時を過ごしました。

「本当すてきな踊りで、笑顔にも癒されたわ」といった声も聞かれ、夏にぴったりのイベントとなりました。

私達もゲストの皆さんの笑顔を见習い、患者さんに安心と癒しを与えられるような介護



スタッフも参加しました

提供が必要であると改めて感じました。

今後も皆さんに喜んで頂けるイベントの企画を介護福祉士の活動として行っていきたいと思えます。

（ボバース記念病院看護部3階 病棟 椿典子）

認知症サポートに関する研修を実施しました

昨年7月に開催した実践発表会において、「ユマニチュードについてもっと知りたい」という声が多数上がったことを受け、9月から本やDVDをテキストとして、有志約30名でユマニチュードを学び、実践してきました。

そして今回、代表者4名の実践発表と認知症サポーター養成講座を同時開催したところ、法人内各所から今年も

100名近い職員が参加しました。アンケートには「もっと学びたい」という積極的な言葉が多く、認知症ケアに強い関心を持たれているとともに、現場での対応に困っていることもあるのでは？と感じました。

認知症の方はもちろんですが、私達自身の不安も取り除けられるように、皆さんと学びを深めていきたいと思っ

います。
(サンローズオオサカ在宅サービス課主任 高橋愛子)



多くの職員が認知症ケアを学びました

頑張っている職員に注目!

ただ今、奮闘中

#51

施設内業務の“カイゼン”

森之宮クリニック診療技術部看護科
徳田佳子、竹内亜希子、牧島歩、
伊藤恵子、吉田香愛 科員

森之宮クリニックは、開設から9年目を迎えました。日々進化するために、看護師6名全員で施設内業務の振り返りと改善策に奮闘しています。あるインシデント事例から取り組んだ受診者誤認防止策として、看護師が中心となり、施設内職員へアンケート調査を実施しました。現状の問題点から改善策を見出した結果、氏名確認方法の番号札を作成しました。結果、フルネームでの口頭確認と番号札での目視確認で受診者誤認防止が行えています。また、コメディカルが統一して実施できるように、車いす介助のマニュアル作成に取り組みました。それぞれ医療者役・患者役になって写真撮影し、ワイワイと楽しみながらマニュアル作成できました。施設内に問題点がないのは理想ですが、問題点に気が付かないことは避けなければいけません。現状に満足せず、これからも看護師一丸となって改善策を見出していきます。

(森之宮クリニック診療技術部看護科主任 川端元子)



医療者役と患者役の看護師



車いすマニュアル作成

森之宮クリニックは、開設から9年目を迎えました。日々進化するために、看護師6名全員で施設内業務の振り返りと改善策に奮闘しています。あるインシデント事例から取り組んだ受診者誤認防止策として、看護師が中心となり、施設内職員へアンケート調査を実施しました。現状の問題点から改善策を見出した結果、氏名確認方法の番号札を作成しました。結果、フルネームでの口頭確認と番号札での目視確認で受診者誤認防止が行えています。また、コメディカルが統一して実施できるように、車いす介助のマニュアル作成に取り組みました。それぞれ医療者役・患者役になって写真撮影し、ワイワイと楽しみながらマニュアル作成できました。施設内に問題点がないのは理想ですが、問題点に気が付かないことは避けなければいけません。現状に満足せず、これからも看護師一丸となって改善策を見出していきます。

消化器外科医として大学病院、分院の勤務を経て2010年から地域医療を担う一般病院に転向し、患者さんやご家族に密着した医療を行って来ました。以前、森之宮病院には、数回、手術の手伝いに来させて頂いたことがあり、新しくきれいな病院で手術室も広く設備も充実しているとの印象がありました。このたびご縁があったので本年4月から森之宮病院外科でお世話になることになりました。森之宮病院外科では消化器癌、急性腹症(おなかいた)、外傷、ヘルニア(脱腸)等を扱っています。病院もきれいです。周囲は大阪市内とは思えない緑にあふれた環境で、森之宮という美しい地名に恥じないものと思われました。森之宮の地名は、もと大阪城のあたりに鎮座していた生國魂神社の東側に森が広がっており、難波の森と呼ばれていたが、598年に新羅より贈られたカササギをこの森で飼育したため鶴森(かささぎのもり)と呼ばれるよう

Medical Doctor's Voice #64

「森之宮病院に勤務して」



森之宮病院外科
小倉 徳裕

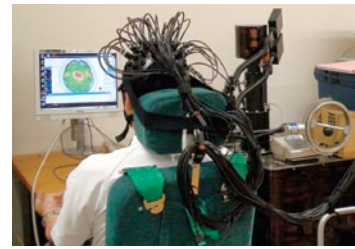
になり、同じ頃、聖徳太子が鶴森宮(かささぎのもりのみや)を造営した、この神社の通称である森之宮神社に由来するとのこと。また、森之宮では縄文時代の遺跡、貝塚も発見されており、一帯は海辺で太古の昔から人が生活していたようです。縄文時代から人が住んでいる森之宮に建つ森之宮病院だからということではないでしょうが、大阪市内としては想像以上に高齢で様々な合併症を持つ患者さんが多く、診断、治療に難渋することもしばしばです。超高齢者の治療にあたってはまず優先順位を考え、何を治療し何を諦めるか、いかに日常生活の活動レベルを下げることなく退院して頂くか等のバランスを考えています。

外科のみならず他科の医師やリハビリスタッフ、看護師、事務系の方々の協力を得ながらより良い医療を提供できるように努力したいと考えています。

森之宮病院神経リハビリテーション研究部の研究が『週刊朝日』に掲載されました

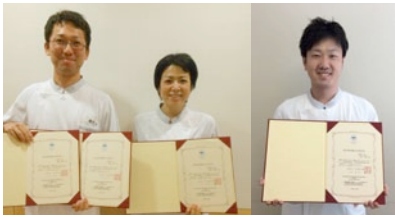
森之宮病院神経リハビリテーション研究部の研究が『週刊朝日(2015年8月7日増大号)』の「回復期リハビリのいい病院602」の特集に掲載されました。この特集では、脳卒中等により脳細胞がダメージを受けたとしても、周囲の神経が機能を補う仕組みを利用した最先端リハビリ「ニューロリハビリテーション」につ

いて取り上げています。その中で、森之宮病院院長代理の宮井一郎医師(回復期リハビリテーション病棟協会副会長)が取材を受け、自身が研究を進めるNIRS(Near Infra-Red Spectroscopy=近赤外線分光法)を用いた「ニューロフィードバック」という最新のリハビリ治療について紹介されました。



ニューロフィードバックの様子

当法人の理学療法士が公益法人日本理学療法士協会の認定理学療法士を取得しました



左から藤田科員、滝田主任、段上科員

日本理学療法士協会では、卒後教育システムとして新人教育プログラ

ム履修者を対象に認定理学療法士の資格取得を推奨しています。資格取得に向けては「学会参加」、「研修会への参加」といった学術に対する取り組みだけでなく、「症例レポート10例の作成」といった臨床面も問われる為、ハードルが高く、全国でも資格取得者は約0.8%程度とかなり少ないのが現状です。

そんな中、平成26年度の認定試験

で森之宮病院の滝田主任(脳卒中)、藤田科員(脳卒中、発達障害)、ポバース記念病院の段上科員(脳卒中)が認定資格を取得致しました。

今後もしハビリテーション部では卒後教育として認定理学療法士取得を推進し、リハビリテーションの質の向上に努めていきたいと思えます。(ポバース記念病院リハビリテーション部理学療法科主任 藤田良樹)

大道会総合サイト・看護師採用サイトのホームページをリニューアルしました

7月30日、『大道会総合サイト』と『看護師採用サイト』の2つのホームページをリニューアルしました。スマートフォンでも快適に閲覧できる「レスポンシブデザイン」を採用し、当法人の取り組みや、看護師・その他職種の採用ページの情報を大幅に追加しました。年内には大道会の各病院・施設の8サイトがリニューアルされる予定です。この機会に、ぜひ大道会ホームページ(<http://www.omichikai.or.jp/>)をご覧ください。



大道会総合サイト



看護師採用サイト

ご寄付を頂きました

白田栄子様(大阪市城東区)、東中浜社会福祉協議会様(大阪市城東区)よりご寄付を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

Live30【ライブ・サーティ】

2015年9-10月号 vol.212 (隔月発行)

編集発行人/社会医療法人大道会

〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1

TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

● 本法人の経営理念

1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

● 職員行動モットー

- 親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない/よく説明する/連携する

■ 大道会

社会医療法人大道会本部

TEL 06(6962)9621

森之宮病院

TEL 06(6969)0111

ポバース記念病院

TEL 06(6962)3131

森之宮クリニック(PET画像診断センター)

TEL 06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

TEL 06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

TEL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

TEL 06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

TEL 06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

TEL 06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

TEL 06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

TEL 06(4259)5311

レンタルケアおおみち

TEL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

TEL 06(6974)7388

東成山学学園(保育園)

TEL 06(6974)7377

● 大道会ホームページ

<http://www.omichikai.or.jp>

大道会



編集後記

平年以上の暑い夏が過ぎていきました。8月の猛暑日も、昨年は1日のみだったのが、今年は連日記録が更新され続けました。TVでも熱中症等、猛暑に関するニュースや情報も多かった夏でした。

そんな夏で、唯一楽しんだことは洗濯です。洗濯しても洗濯してもすぐに乾いてくれて、楽しく洗濯ができて家中をさわやかにすることができました。

これからは、秋の風が吹き始める事を期待したいです。心地良い秋風が吹くまでは、熱中症や脱水症には気を付け、体調管理を怠らず食欲の秋に備えていきたいと思います。

(森之宮病院看護部6階東病棟科長 國生照子)